

16×33行

アメリカ大統領の就任演説は「装置」である。合衆国憲法によると、就任演説をしなければならないという規定はない。ただ就任の際に宣誓をしなければならないと定められているだけだ。

では何故、就任演説を行うのだろうか。ワシントン以来の伝統だから。それも一つの答えである。しかし、それだけでは十分ではない。

就任演説とそれに伴う式典は、一言で言うと「アメリカ国民を再統合する装置」である。日本の首相が就任の際に行う所信表明演説よりもっと広い意味を持つ演説である。

いったいどのような意味があるのか。日本の首相の所信表明演説と同じく、これから始まる新政権で何をなすべきかを説くという点は同じである。一方で決定的に違う点は、就任演説が、広大な国土で普段バラバラに暮らしているアメリカ国民を一つの国民として再統合する役割を果たしているという点である。

就任演説では一般的に、アメリカの伝統的な価値観である「自由」や「幸福追求の権利」が強調されたり、過去から現在までの歴史的な連続性が述べられたりする。

聴衆はそれらを聞くことで、自らがアメリカ国民であるという意識を新たにし、愛国心をよみがえらせる

のである。

16×47行

01 アメリカを存続させてきたのは「私たちアメリカ国民」だとオバマがわざわざ再確認しているのはなぜか。それはオバマがワシントンを「ごく普通の人々」の手に取り戻すことを約束しているからだ。

広大なアメリカに住む人々は普段、ワシントンとは全く無縁である。そのため、自分たちの生活を変えてしまうようなことをワシントンで一部の人々が勝手に決めているのではないかという疑念にとらわれてしまう。オバマは新政権を開始するにあたってそうした疑念を払拭しなければならないのだ。

国民が主人公であることは、民主主義国家であるアメリカではごく当たり前のように思える。しかし、国民自身がそれを忘れがちになってしまうのだ。

オバマが大統領の座を射止めることができたのは、実は話す力のみによるのではない。国民の声に耳を傾けるといふ聴く力によるところが大きい。アメリカ国民こそ主人公だと示すことで、オバマは国民の声に耳を傾けているのだという姿勢を打ち出しているのだ。

今を去ること七十六年前、大恐慌の真っ只中にあったアメリカは、オ

バマと同じく新たな民主党大統領を迎えた。フランクリン・ルーズベルトである。ルーズベルトは第一次就任演説で、「率直で活力に富んだリーダーシップ」こそ難局を乗り越えるために必要であるとはっきりと述べ、力強い指導者像を打ち出した。今回のオバマとは対象的である。

オバマは強力なリーダーシップを発揮するよりも、人々の連帯を訴えかける手法を選択している。建国の文書の理念という伝統的な価値観に立ち戻り、「私たちアメリカ国民」の連帯を強調するのは、オーソドックスな手法であるが、「ごく普通の人々」の大切さを訴えるオバマにとって最適な手法である。

16×49行

02 アメリカに危機が訪れた際に、その危機が何であるかを規定し、危機にどう対処すべきかを決定するのは大統領の言葉である。

オバマはそれをよく理解している。大統領は国民に危機の本質を認識させなければならない。危機を国民全体に認識させることにより広く国民の支持を集めれば、議会に対して大きな影響力を持つことができる。議会も国民の意向を無視することはできない。国民の圧倒的な支持以上に正当性を持つものがあるだろうか。オバマが国民に危機感を抱かせよう

としているのはそうした正当性を得るためなのだ。

一見するとこのフレーズは同じ主語が並んでいて平凡に思える。そして否定的な内容が続いている。聴衆からすれば同じ主語が続くことに安心感を覚える一方で、最後に何かくるだろうと予測することができる。さらに、「きっと難題に対処できる」と言う前に、「アメリカよ」と呼びかけることで山場をきちんと作っている。案の定、聴衆もそれに応えて拍手喝采をしている。これは実に計算されている山場なのである。

さらに否定、否定、否定と続いた後で肯定となると盛り上がるという人間心理を巧みにしている手法である。初めから終わりまで肯定的なことばかりでは真実味がない。しかし、否定的なことが続いた後で、肯定的なことがくると、非常に際立つのである。

こうした手法は、キング牧師の「私には夢がある」演説でも使われている。キング牧師は、有名な「私には夢がある」というフレーズに入る前に「私たちはもはや満足できない」、「私たちは引き返すことなどできない」といった「～できない」という否定を随所で使っている。

そうした否定によって聴衆の高まっていく感動を抑えているのである。そして、一気に「私には夢がある」

というフレーズで聴衆の高まる思いを解放させているのだ。

16×39行

03 このフレーズで注目すべき点は、分断戦略である。例えば、戦争中に、敵国の指導者層に対しては強硬な態度でのぞむ一方で、敵国の国民に対しては平和を呼びかけるといった戦略である。それがうまくいけば、敵国の指導者層と国民を分断することができる。分断により指導者層が国民の支持を失えば、弱体化するのは必至である。

それと同じくオバマは、ただ単にイスラム世界に平和を呼びかけたのではない。イスラム世界の国民に平和を訴えかけることで親米感情を持たせ、指導者層と分断しようとする戦略である。もちろん、大人しくすれば「手を差し伸べる」という指導者層に対する申し出も同様の戦略に基づいている。

アメリカに敵対的な国の中には、社会的不満を反米感情と結び付けることで国民の怒りの矛先をそらせている国もある。そうした国の指導者に敵対姿勢をやめさせるには、その仕組み自体を壊してしまう分断戦略が有効なのである。もしアメリカから差し伸べられた手を指導者層が拒絶するなら、国民の怒りの矛先は指導者層自身に向かうことになる。

平和を呼びかけたからといってオバマは戦争をしないと約束できるだろうか。否である。なぜなら分断戦略をとっている時点で、イスラム世界の指導者を敵視していることは明らかだからである。

キング牧師は、暴力を失くすために暴力を使ってはならないと訴えかけた。オバマはその教訓を活かすことができるのだろうか。

16×59行

04 どのフレーズを紹介すれば良いかを考えるために、私は電車の中で演説本文を読んでいた。そんな時、私の手元を見て一人の黒人男性が声をかけてきた。オバマについて話が弾み、せっかくの機会であるから、就任演説の中でどのフレーズが好きかを聞いてみた。するとこのフレーズが最も好きだと教えてくれた。中でも「新しい責任の時代」という言葉が特に気に入ったという。

「新しい責任の時代」はオバマ政権のこれからのスローガンとなるだろう。このように分かりやすいスローガンで政治の方向性を明示する手法をイデオグラフと言う。

アメリカ人はしばしば「新しさ」を求めるものなのか、フランクリン・ルーズベルトの「ニュー・ディール」は言うまでもなく、他にもケネディの「ニュー・フロンティア」、

セオドア・ルーズベルトの「ニュー・ナショナリズム」、ウィルソンの「ニュー・フリーダム」など「新しい」を冠したイデオグラフが多い。

オバマのイデオグラフが人々の記憶に残るものとなるかどうかはまだ分からないが、それは人々の時代精神をどれだけ反映しているかどうかによる。

なぜアメリカ人はしばしば「新しさ」を求めるのか。ニュー・ディールやニュー・フロンティアがなぜ人々の記憶に未だに残っているのか。それは、アメリカ国民が、物質性と精神性という相反する二つの幸福の基準の間を行ったり来たりしているからだ。その揺れを的確にとらえた言葉は後々まで記憶に残る。

ケネディが登場した時代、アメリカ国民は精神性を求めた。アメリカという国の精神性の衰えを嘆き、それに清新な息吹を吹き込んでくれそうなケネディを大統領に選んだ。

今回、オバマが登場したのも、アメリカ国民が連帯という精神的価値観の喪失を危惧したからと言える。オバマは、「新しい責任の時代」で説いているのは精神性である。思い起こしてみれば、ケネディが就任演説で国民に語った「国があなた方のために何ができるのか問うのではなく、あなた方が国のために何ができるのかを問いなさい」という言葉によく

似ている。

オバマの言葉は、今、アメリカ国民の時代精神を反映した言葉であり、アメリカ国民自身のメッセージである。

16×70

05 なぜオバマは自分の父親のことをわざわざ持ち出したのだろうか。

それは国民に大統領は実は身近な人だと感じさせる戦略である。「地元のレストランで食事することさえできなかつたかもしれない父親を持つ男」は特別な存在ではなく、本当はあなた方国民と全く同じ存在なのだ。オバマは伝えたいのだ。こうした戦略をオーセンティシティ戦略と言う。

つまり、オーセンティシティ戦略とは、大統領のような高い官職に就く人も、決して手の届かない人間ではなく、実は普通の人間だという演出である。

そうした演出が重要なのは、アメリカ国民の支持を得るためには親近感が不可欠な要素だからである。家族のことをあたたかく語ったり、気軽にバスケットボールをしたりすることで、テレビでしか見ることができない大統領も普通の生身の人間であることを国民は実感して安心する。なぜなら市民の第一人者たるプレジデントは、雲の上の人でも帝王

でもなく、「ごく普通の人々」の代表でなければならないからだ。

さらにオバマが伝えようとしたことがもう一つある。「地元のレストランで食事することさえできなかったかもしれない父親を持つ男」でも大統領になれた。それはまさにアメリカン・ドリームである。ならばアメリカ国民一人一人の力で、現在、アメリカを覆っている閉塞感を打破することもできるはずだ。それがこのフレーズに込められたオバマのメッセージである。

就任演説全体を通じて私が感じた印象は、ボールドネス、すなわち大胆さが足りないことである。もちろん文体といい構成といい洗練されているのは確かである。しかし、あまりに練りすぎて言葉本来が持つ勢いが失われてしまったのではないかと私は思う。

私が最も高く評価する就任演説は先ほども紹介したフランクリン・ルーズベルトの第一次就任演説である。それには新時代の幕開けを告げるボールドネスがある。明確なリーダーシップがある。大統領としての私、ルーズベルトの意志がはっきり感じられる。

対して今回のオバマの就任演説は、何か新しく脱皮を図ろうとしたけれども何か物足りないという感じがする。

なぜそう感じるのか。それはオバマが「私が」という主語を全くと言ってよいほど使っていないからだ。これでは大統領としての私、オバマの意志がはっきりと伝わってこない。確かに大統領は「私たちアメリカ国民」の声の代弁者であるが、同時に国民の先頭に立つ一人の指導者でもなければならない。両者のバランスをいかにとるかが今後のオバマの大統領としての評価を決定する。

16×5行

にしかわ・ひでかず 早稲田大学助手を経て現職。専門は大統領の演説分析。近著『オバマ、勝つ話術、勝てる駆け引き』、『歴史が創られた瞬間のアメリカ大統領の英語』。

01

英文

At these moments, America has carried on not simply because of the skill or vision of those in high office, but because We the People have remained faithful to the ideals of our forbearers, and true to our founding documents.

和文

そのような時を経てアメリカが存続してきたのは、指導者の手腕や先見の明だけではなく、私たちアメリカ国民が先祖の理想に誠実で、建国の文書で示された理念に忠実だったからである。

02

英文

Today I say to you that the challenges we face are real. They are serious and they are many. They will not be met easily or in a short span of time. But know this, America - they will be met.

和文

今日、私があなた方に語るのは、私たちが直面している難題は現実のものだということだ。難題は深刻であり数も多い。たやすく短時間で難題に対処することはできないだろう。しかし、アメリカよ、きっと難題に対処できる。

03

英文

To the Muslim world, we seek a new way forward, based on mutual interest and mutual respect. To those leaders around the globe who seek to sow conflict, or blame their society's ills on the West - know that your people will judge you on what you can build, not what you destroy.

和文

我々は相互の理解と尊重に基づいて新しい道を模索しようとしていると、イスラム世界に向かって訴えたい。争いの種をまき、社会不満を西側諸国のせいにしてしている世界中の指導者に、国民は、何を破壊するかではなく、何を創るかによってあなたについて判断するのだと知ってもらいたい。

04

英文

What is required of us now is a new era of responsibility - a recognition, on the part of every American, that we have duties to ourselves, our nation, and the world, duties that we do not grudgingly accept but rather seize gladly, firm in the knowledge that there is nothing so satisfying to

the spirit, so defining of our character, than giving our all to a difficult task.

和文

今、私たちに求められているのは、新しい責任の時代に入ることだ。アメリカ国民一人一人が自分自身、我が国、そして世界に対して義務を負うことを認識し、それらの義務をしつづき引き受けるのではなく、喜んでつかみ取るべきであり、困難な責務に全身全霊をささげることこそ私たちの魂を満たし、私たちを特徴付けるものだという心得を固く持つべきだ。

05

英文

This is the meaning of our liberty and our creed - why men and women and children of every race and every faith can join in celebration across this magnificent mall, and why a man whose father less than sixty years ago might not have been served at a local restaurant can now stand before you to take a most sacred oath.

和文

これこそ私たちの自由と信条の意味なのだ。なぜ様々な人種や信条の男女や子供たちがこのワシントン中心

部の至る所で祝賀に集えるのか。そして、なぜ六十年足らず前に地元のレストランで食事することさえできなかったかもしれない父親を持つ男が今、大統領宣誓を行うためにあなた方の前に立つことができるのか。